



日本区域麻酔学会第 13 回学術集会
ランチオンセミナー 6



2026
4/25
11:30~12:30

土

会場 (第 3 会場) 都市センターホテル 5 階 オリオン
〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-1

痛みから逆算する超音波ガイド下区域麻酔戦略 — 整形外科医の視点 —

Ultrasound-Guided Regional Anesthesia Strategies for Pain Management: An Orthopaedic Surgeon's Perspective



座長
外山 裕章 先生
山形大学医学部 麻酔科学講座
主任教授



演者
宮武 和馬 先生
横浜市立大学 整形外科教室
講師

演者紹介

【略歴】 2011年3月 横浜市立大学卒業
2011年4月 東京厚生年金病院 初期研修医
2013年4月 東京厚生年金病院 整形外科 後期研修医
2014年4月 JCHO 東京新宿メディカルセンター 整形外科
2016年4月 横浜市立大学医学研究科運動器病態学教室
2017年4月 難治性疼痛・スポーツ外来開設
2020年4月 横浜市立大学附属病院整形外科 指導診療医
2021年3月 横浜市立大学医学研究科大学院 博士課程修了
2021年4月 横浜市立大学附属病院整形外科 助教
2024年4月 横浜市立大学附属病院整形外科 医局長
2026年4月 横浜市立大学附属病院整形外科 講師

【著書】 「臨床整形超音波学」(2022年)
「神経と筋の解剖・評価 コンパクトアトラス」(2025年)
「結果の出せる評価と治療 一末梢神経とエコーから紐解く痛みの解釈—」
【学会】 2027年 第38回日本整形外科超音波 会長
一般社団法人日本整形外科超音波学会評議員
一般社団法人日本肘関節学会評議員
【資格】 日本整形外科学会専門医

共催 日本区域麻酔学会第 13 回学術集会 / 丸石製薬株式会社

痛みから逆算する超音波ガイド下区域麻酔戦略

—整形外科医の視点—

整形外科診療は近年、「形を治す医療」から「痛みを治す医療」へと大きく変革を遂げつつある。その背景には、画像診断が X 線から CT、MRI へと進歩したのち、さらに近年、超音波診療が臨床現場に深く根付いたことがある。超音波は、末梢神経や筋・腱・筋膜、血管など疼痛の発生源をその場で評価し、標的を同定したうえで低侵襲に介入できる点で、周術期鎮痛戦略の質を高める。

本講演では「痛みから逆算する」ことを起点に、超音波ガイド下区域麻酔／末梢神経治療を横断的に設計する実践的枠組みを、整形外科医の視点から提示する。手術関連の痛み治療はとりわけ重要であり、術前・術中・術直後の急性痛のみならず、遺残疼痛まで複数の時間軸で末梢神経への介入が役立つ。術前・術中・術直後の疼痛強度や鎮痛不全は Chronic post-surgery pain (CPSP) と強く関連することが知られており、周術期における麻酔科の疼痛管理が、短期アウトカムだけでなく長期の疼痛予後を左右し得る。

さらに、術後の遺残疼痛の多くは neuropathic CPSP の要素を含むため、超音波ガイド下の末梢神経治療（診断的ブロック、選択的な神経周囲介入など）は、病態評価と治療の両面で極めて重要となる。2017 年に難治性疼痛外来を開設し痛みと向き合ってきた経験を踏まえ、診療科連携の中で区域麻酔を“痛みから逆算して”最適化するための視点を共有する。

○宮武 和馬¹、稲葉 裕¹ 横浜市立大学附属病院 & 整形外科